

## 京都大学理学部(理学研究科)地球物理学教室同窓のつどい(要旨)

月日：2010年(平成22)年2月13日(土)

会場：講演会・総会：京都大学理学部 6号館 301号室

懇親会：京大北部構内 生協2階 “ほくと”

講演会・総会：教室主任町田教授の司会で会を進めた。

田中会長挨拶：本同窓会は8年目に入りました。会の目的は名簿の充実と会員相互の情報交換と交流を深めることにあります。山元先生が初代会長として会を立ち上げられ、軌道にのりました。私どもの任期はあと1年残っておりますが、来年には新しい展望をもって交代ができるよう、この1年努力したいと思っております。はじめに、教室主任の町田先生から教室の近況についてお話をいただき、続いて大阪市立大学の塩野先生の特別講演と、ご退職予定の先生方に記念のご講演をお願い致します。休憩のあと総会、その後場所を移して懇親会を開催します。それでは町田先生、お願い致します。

地球物理学教室の近況： 町田 忍教授 (教室主任)

○「地球物理学教室の近況」についてはここをクリックしてください。

特別講演：

地質学の数学的基礎

塩野清治教授 (大阪市立大学大学院理学研究科/  
S44年卒地殻物理学講座)

講演：

未解決の課題

川崎一朗教授 (防災研究所)

○「未解決の課題」についてはここをクリックしてください。

土石流を観る、測る

諏訪 浩准教授 (防災研究所/S45/M:S45②)

○「土石流を観る、測る」についてはここをクリックしてください。

漂砂環境における液状化・流動化の物理

関口秀雄教授 (防災研究所)

○「漂砂環境における液状化・流動化の物理」についてはここをクリックしてください。

地震予知のはみ出しっ子

柳谷 俊准教授 (防災研究所)

司会：どうも有難うございます。 5分休憩して17時20分から総会を始めます。

休憩

京都大学地球物理学教室同窓会平成22年総会

岩崎副会長の司会で総会議事を進めた。

岩崎：地物教室同窓会総会を始めたいと思っております。昭和35年入学、同39年卒業の岩崎でございます。最初に事業報告ですが、お配りした名簿(2010/02)最初のシリーズ9頁目に、昨年2009年講演会・総会、秋の拡大役員会のプログラムが載せてあります。昨年の総会には尾池先生に「法人化の前後」、原田先生には「温暖化と気候変動」、竹村先生に「琵琶湖掘削とその後」、淡路先生には「観測とモデルの融合による全海洋診断」をお話頂きました。本年度の名簿は、2年に1度名簿を出そうということになりましてから最初の号です。ご講演頂いた内容は会長が

書き起こしてご講演いただいた先生に修正をお願いし、ほぼすべて同窓会のホームページにuploadされています。長文の内容をホームページでご覧頂くより、こうして印刷して見るほうがかなり良かったのですが、2年分をこの中にまとめています。ただし中には諸般の都合上やむなく勝手に一部モノクロとさせていただきました。旧帝国大学からの学士会報がB5版になっていますが、講演などをしっかり出版されています。聞くのは「聞く」で印象的ですが、あとからこうやって見ますと、ああこういうことだったのかと改めて活字のもつ効用というのを感じました。

それから、去年の総会では会則に若干修正を加えました。先の会長の山元先生のご意見で、総務というのがあればなあ、ということで役員の中に総務ということで、諏訪先生になっていただいております。いろんな運営の進行がうまいこと動いております。有難うございました。まあ、そんなことで去年の拡大幹事会というのは1月14日（土）にいろんな行事がありまして、午後3時から在籍している学生さん、応援団の連中も張りきって出ておりまして、ミキシングということで、ごちゃごちゃの飲み会になっておりました。それが終わりましたから、5時から2時間半ほど集まりまして、同窓会の略称をつけるべしとの山元先生のご提案でしたが、これがいいという案はまだ出ておりません。本日、これがいいというご提案がいただければ、と思っております。以上ですが、次にお認め頂ければ有り難いと思います。

それでは会計報告を会計担当の福田教授からお願いします。

**福田：**会計は年度ではなくて、1月1日から12月31日です。昨年からの残りが263,750円（昨年入会3名で9,000円、懇親会は30名の会費をいただき150,000円、同窓会名簿は昨年作っていませんが1冊申し込みがあり、去年度作ったものをお送りするということで先にお金を頂きました。年末で656,590円ですが、すぐに懇親会の支払いがあります。その他に郵送用の宛名ラベルの購入、総会案内がメインになります。利子がつけば税金がかかります。支出合計が176,500円、差し引き448,187円です。昨年は名簿を作っていません。今年はその分が上乗せになります。ご質問はありますか？

**田中寅：**一言だけ申し上げます。新しい会員となるべき新卒業生ですが、その名簿が手に入らないということです。在っても流されて来ないということです。大学が全体として取り仕切って、情報が個人情報であるため会員になるべき人が会員になってもらえないという状況が進んでいるわけです。新入会員がほとんどゼロであるという理由はそういう事情があるためです。

**岩崎：**監査報告をお願いします。

**田中良和監査：**1月27日に約30分福田教授の部屋で監査を行い、問題ないことを確認しました。

**岩崎：**ほかにご質問は？ なければご了承いただいたことにします。

次に略称です。まず「志田会」ですが、人名を使うのはあまり例がない。知球会などいろいろありますが、赤色をつけた名前がいいと思いますが、1名の会員からはインターネットで「知球会」がいいのではないかとされています。ここで集まれた皆さんが選ぶ案はどうか、と大内先生からのご提案がありましたが、どうですか。意見分布を聞いてはどうでしょうか。あるいは地球物理同窓会を残してはどうでしょうか。提案ではどれも3文字ですが、名称は愛されるものがよいでしょう。現在積極的な意見がないとしても、若い方々にも受け入れられる要素のある方がよいでしょう。幹事会では4つ選べたが、他方では地球物理を残すのがよいという意見と「物理」、「地物」ではちょっと・・・、などの意見も出て、現在までまとまっていません。

○「北白川」は長すぎるというのでなければ「北白川地物会」はどうか。地鉦と将来の合同でということになれば、それを眺むと、地球（earth science、地球科学です）という言葉もいいと思うが。ここで投票によって決めるのはどうか。人気はどんなものか。

○「総会の決定によって決めてはどうか。それくらい考えて提案されたのですから。

○地球惑星という枠組みもある。地球惑星科学専攻という考えも出ている。

**福田：**地鉦も同窓会をもちたいということで準備会が設立されたい。そしてこのような会を合同で開いたらどうかという話も出ているらしい。もちろん、一緒にやれるかどうかは分かりませんが、まあ十分ありうると思います。

**岩崎：**まあ、結論は出ませんが、私の把握するところでは、地物と地鉦は別々で、何かあるときは一緒に集まる、といった3つの選択肢があると思います。

まず、早く決めるかという、採決をとりたい。決をとって決めよう。賛成は3人、他はもう少しあとにする。意見分布は、志田会0、追分会 0、追球会 1、知究会 14、北白川地物会 6であり、推薦はこの2つとなった。もう少し待ってはどうか。来年は推薦演説をして決めましょう。

○会員300人では、一層入会してもらわなければどうしようもない。

○何かの手をうたなければ。

○他学部では、入学した時点で入会させるとも聞いている。もちろんこれにはもう少し議論する必要があるが。それから報告をわすれたが、今年度の修士の発表会が今週あって、発表について採点することになった。そこで、高い点を院生に、ここへきて講演してもらってはどうか。全員で採点するかは、問題になりますが、まあそんなことを検討、工夫してみたいと思っています。

○修論とかD（博）論の公聴会ですが、出来ればですが、e-mailでよろしいですが、同窓会のnetに流して下さると、興味のある方は出席できるということもありますので。

**岩崎：**ほかに？

○修士、博士を終了した方で就職できた方はおられるのですか？

○大学院に限ることではありませんが、少なくとも我々の講座あるいは周辺で、世の中に出て行く人もいますし、業績を挙げて、惜しい人も出ていかせている、と理解しております。

**岩崎：**それでは総会を終了致します。

(以上)